

1月も早くも後半となりました。暦通りに、今週は大寒波が日本列島を襲うとのこと、兄弟姉妹の心身が守られることをお祈りしています。

### 宴会の席

久しぶりに、ルカ 14 章の「宴会の席」に戻ってきました。なんと、2ヶ月ぶりの講解説教の聖書箇所になります。年末年始を挟んで、楽しい実際の宴会の席を囲んだ方もいらっしゃるでしょうか。イエス様は、ファリサイ派の人々から、「見ろ、大酒飲みの大食漢だ」と非難されるほど、食卓を人々と共にされました。宴席を、単なる楽しみ以上の大切な時間として捉えておられたことが分かります。

どんなことでも、神様が私たちに与えておられるものは、良いものを備え、その人たちの喜びとなるように願っておられる、ということをお願いしたいと思います。その最高の贈り物は、イエス・キリストという救い主をこの世に送ってくださったという救いの約束です。信仰によって生きる時、私たちの心には喜びと祈りと感謝が、大きな平安となって満ち溢れます。幸いな食卓で味わう喜びに重なります。

### 招待状の返信

イエス様と共に食卓を囲んだ人の中で、この幸せを感じた人が、思わず叫びます。「天国の食卓は、もっと幸いなことでしょう！」と。しかし、イエス様は意外な例え話でこの人に応答されました。それは、多くの人はその招待状を受け取っても、断ってしまうのだ、ということです。四つの種の例え話で、いばらが塞いで実を結ばなかった種のように、素晴らしいと分かっているけれど・・・とキャンセルしてしまう人間の姿をイエス様は鋭く指摘されたのです。はじめから、欠席の返事を伝えているならまだしも、出席しますと言っておきながら、いざという時に、できませんというのは、身勝手に、一番相手を侮辱する態度になってしまいます。

例え話に出てくる三人の応答は、色々な解釈ができますが、私たちが依頼を断るときに使う常套句になぞらえて、「ねばならぬ」「今はどうしようもない」「できません」に重ねることができます。

神の国の食卓に通じる道は、おとぎ話でも、架空の世界のことでもない、とイエス様は言われているのです。ランナーがトレーニングを続けるように、芸術家が技と完成を磨き続けるように、信仰者はこの約束を待ち望み、御心に適う歩みに進むよう勧められています。

三人のもともと招待されていた人々は、喜びに与る機会を逃してしまいました。私たちはどうでしょうか。出席に丸をつけたのに、いつの間にか自分の都合が優先になっていないでしょうか。本当の喜びは、受ける者より与える者に満ち溢れるのです。